



ひょうしげんが
表紙原画(『それいゆ』第31号) 1954年

ねんめ
111年目の

なか はら
中原

じゅん いち
淳一

てん
展

なか はらじゅんいち
中原淳一の
ざっし しごと しょうてん
雑誌の仕事に焦点をあて、
そのことばとあわせて
しょうかい
をご紹介します。



なか はら じゅん いち
中原淳一 (1913~1983)

かがわけん う ねん じょうきよう
香川県生まれ。1926年に上京し、
ねんうえ の ひろこう じ こうきゆうようひんでん
30年上野広小路の高級洋品店の

ぼってき
デザイナーに抜擢される。

ねん しゃ せんしん
39年ヒマワリ社の前身となる

ようしよくごう か ようそう みせ
洋飾雑貨と洋装の店「ヒマワリ」を開店。

せん こ
戦後には『それいゆ』、『ひまわり』、
『ジュニアそれいゆ』、『女の部屋』などを創刊。

ゆめ わす じ だいい じよせいたち くら
夢を忘れがちな時代、女性達に暮しも

ファッションも心も「美しくあれ」と

しあわ い みちすじ しめ
幸せに生きる道筋を示して

で き ぞんざい
カリスマ的な存在となった。

かつやく ば ざっし
活躍の場は雑誌にとどまらず、

ファッション、イラストレーション、

ヘアメイク、インテリアなど

はばひろ ぶん や じ だいい
幅広い分野で時代をリードした。

しょうじよざっし
少女雑誌
しよ じよ とも
『少女の友』
ねん ねん
1932年~1940年

なかばら ひよし が さしえ えが きかん
(中原が表紙画と挿絵を描いた期間)

へんしゅうしゃ さいのう みいだ せんぞく が か
編集者とその才能を見出されて、専属画家として
さしえ ひよし えが ふろく きかく じよがくせいふく
挿絵や表紙絵を描く。付録の企画や「女学生服
そうちよう れんさい たんどう
装帖」というファッションページの連載も担当した。



『少女の友』
だい かん だいい ぎょうじよ
第33巻第5号表紙
ねん
1940年



じよがくせいふくそうちよう
『女学生服装帖』
しよじよ とも だいい かん だいい ぎょうげん が ねん
『少女の友』 第32巻第9号原画) 1939年

じよがくせいふくそうちよう だいい しょうじよ
「女学生服装帖」では、10代の少女にふさわしい
ふくそう かみがた ちか けいあん おお
服装を、髪型も含めて、スタイル画で提案。大き
はんきよう せんそう ちか せいとうふう しょう
な反響を呼んだが、戦争が近づくと、西洋風の少
じよぞう もんだい ねんあま つづ れんさい お
女像が問題となり、3年余り続いた連載は終わる。

ふ じん ざっし
婦人雑誌
『それいゆ』
ねん ねん
1946年~1960年

じよせい あた ちから うつく
「女性のくらしを新しく、美しくする」という
キャッチフレーズで、終戦からちょうど一年
ご じぶん ちから ゆめ ざっし しょうかん め
後に自分の力で夢だった雑誌を創刊。目を
うば あざ ひよし しつ たか ないよう
奪われるような鮮やかな表紙と質の高い内容
は、当時の女性たちを魅了した。



ひやしげん が だいい ぎょう がつごう ねん
表紙原画(『それいゆ』第39号6月号) 1956年

たいよう こ
太陽の子ひまわり。フランス語では「それいゆ」。
けだか つよ うつく はなことば ゆめ あこが
気高く強く美しい花言葉をそのままに夢と憧れを
こめた新しい型式のスタイルブック「それいゆ」は、
せいかつ ないめん けいしき わた つぎつぎ ちせい かがや
生活の内面と形式とに亘って次々に知性に輝く
しんせん りゅうこう う だ なかはらじゅんいち
新鮮な流行を生み出しています。 ~中原淳一



しょうじょざっし
少女雑誌

『ひまわり』

ねん ねん
1947年～1952年



ひょうしげんが
表紙原画(『ひまわり』第4巻第4号) 1950年

『それいゆ』創刊の1年あとに、「よき女性じょせいの人生じんせいはよき少女時代しょうじょじだいを送った人ひとに与えられる」という中原淳一なかはらじゅんいちの考えに基づいて刊行された。読み物よみものは吉屋信子よしかやのぶこ、川端康成かわはたやすなりなどが執筆し、幅広い特集を組んだ。「みだしなみせくしょん」は、『少女のともとも友』の「女学生服装帖」の戦後版で読者から強い支持を受けた。

「みだしなみせくしょん」

(『ひまわり』
第5巻第7号
原画) 1951年



美しくて、かしくくて、優しくて、ものを考えることができる女性じょせいであってほしいと思っ
て「それいゆ」は生まれたのですが、そんな女性をつくるためには、それにふさわしい少女のた
めの雑誌がなければならぬと思ったのです。
音楽おんがくが好きで、読書よきしょが好きで、詩うたが好きで、
優しくて、ちょっぴりおしゃれの少女しょうじょがたくさんいてほしかったのです。
～中原淳一



しょうじょざっし
少女雑誌

『ジュニアそれいゆ』

ねん ねん
1954年～1960年

パリ滞在中たいざいちゆうに構想こうそうを練り、帰国後創刊。「10代のひとの美しい心と暮らしを育てる」というキャッチフレーズのもと、ポップで明るく楽しい内容の雑誌は、男女問わず当時の若者の人気を集めた。本誌では、当時のスターへの登り竜門とうりゅうもんとなった「ミスター&ミス・ジュニアそれいゆ」代表の選出を行った。



ひょうしげんが
表紙原画
(『ジュニアそれいゆ』第6号)
1955年

「それいゆジュニアぱたーん」は、『ひまわり』の「みだしなみせくしょん」を引き継いだ連載。

「ジュニアそれいゆ」十代のひとたちのまいにちの生活せいかつに夢とあこがれをこめ、新鮮で知性ちせいゆたかないろどりをそえる、美しく明るく楽しい雑誌。
～中原淳一

「それいゆジュニアぱたーん」
『ジュニアそれいゆ』第15号
口絵原画 1957年



ふじんざっし
 婦人雑誌
 『女の部屋』
 1970年～1971年

10数年の療養生活のあとに、再び出した雑誌。本誌の「明るく、愉しく、美しい暮らしの本」というキャッチフレーズから、中原のぶれることのない信念が伝わる。残念ながら1年で病に倒れたため、5号で廃刊。中原の雑誌編集の仕事の最後となった。

赤は太陽の色、だから真夏の色かもしれません。しかし、春や夏に着る赤は、どこかにパッと白をきかせて明るく、さわやかに着こなして下さい。



表紙原画(『女の部屋』第2号) 1970年



表紙原画(『女の部屋』のために制作) 1970年頃



《COLOUR and COLOUR》赤
 原画
 (『女の部屋』第1号)
 1970年

また以前のように雑誌をつくってみたい、この気持ちは捨てがたいものでした。今はお金さえあれば何一つ手に入らないものはない時代になり、そればかりが必要以上にデラックスなものへ憧れはむけられている、とさえいえる時代です。それならばこれからの私が女性に願う事は何なのだろう、と一つ一つ整理して、新しく生れる「女の部屋」をつくり上げてゆきたいと思っています。
 ~中原淳一

掲載作品はすべて個人蔵 画像はすべて©JUNICHI NAKAHARA/HIMAWARIYA

111年目の中原淳一展

2023年11月18日(土)
 ~2024年1月10日(水)

そごう美術館 [横浜駅東口 そごう横浜店6階]
 郵便番号 220-8510 横浜市西区高島2-18-1
 電話 045 (465) 5515 (美術館直通)
<https://www.sogo-seibu.jp/common/museum/>
 X(旧Twitter) : @sogomuseum

そごう美術館
 公式サイト



[デザイン] tabby design

[編集・発行] そごう美術館
 2023年11月